

<はぐくみ賞 5団体>

■ 特定非営利活動法人 ここ（大阪）／10万円

「長期休み明けの子どもの自殺を防ぐ居場所づくり『ここ飯』の開催」

団体概要	<p>学校や家庭・地域の中で、安心できる場所を持ってない青少年が、それぞれのペースで、また自分の足で歩みだす準備ができる場所として過ごせる居場所をつくり、活動を通して自尊心の回復や自己肯定感の向上を図り、不登校で不利益を被らないようにすることをめざしている団体。</p> <p>ボランティアスタッフとして不登校児童と接する中で、自己肯定感が低くコミュニケーション能力が乏しいことを痛感し、いろんな人と出会える場所の提供で自信回復につなげようと、2008年にNPO法人として立ち上げた。</p>
事業概要	<p>当事業は、子どもの自立心を育むために、4月～8月に毎月1回、料理の基礎知識の講習と料理教室の開催を行う内容。また子どもの自殺率が一番多い期間とされる9月1日を挟む1週間は連日子どもたちが中心となってご飯を作るイベントを実施し、子どもの自殺予防と参加者同士の交流を図ることを目的としている。</p>
講評	<p>10代前半の自殺に事前の予兆がないと言われていたことに着目した当事業について、審査委員会では「創意工夫」の点で高く評価をした。また、当事業の実施後も、他団体との合同開催も検討されている点について「発展性」「継続性」も見込める企画であり、今後の活動の広がり期待したい。</p>

■ 超新星スバルファイブ（大阪）／10万円

「ヒーローショーがやってきた！訪問型の子ども向け着ぐるみヒーローショーの上演」

団体概要	<p>地域でのふれあいの場をつくり、病気や障がいのある子どもたちが明るく生活していけるよう、着ぐるみヒーローショーの上演を通じて、地域福祉の向上や子育て支援の充実に寄与することを目的に活動している団体。</p> <p>福祉施設等で上演活動を行っていたボランティア劇団等の有志でヒーローショーをモチーフにした観客参加型のイベントを実施してきた。地域活動や福祉活動等の余暇活動を充実させるため、2006年に団体を設立した。</p>
事業概要	<p>本事業は、障がいのある子どもたちの施設や小児病棟のある病院等に働きかけ、訪問型イベントを年4か所を実施する内容。実施にあたっては、病気や障がいの程度や状況に十分配慮しながら、ヒーローショーをモチーフにした体験型のイベントを企画し、病気や障がいのために外出が制限される子どもたちの生活の質的な向上への寄与をねらいとしている。</p>
講評	<p>本団体は地域の催し等に出演経験があり、審査委員会では、本事業への「共感と市民参加」の視点や「実現性」などを高く評価された。</p> <p>本アワードの助成をきっかけに、イベント開催に協力的な病院や訪問型のイベントを行える個人や団体が増えることを期待したい。</p>

■ なんちゅう騒乱隊（兵庫）／10万円

「舞台でかっこよく踊ることで、心のバリアフリーを広めようプロジェクト！」

団体概要	<p>引きこもりがちな知的障がい児・者たちに、仲間と一緒に踊るという余暇の楽しさを伝え、地域に披露することで自信と生きがいを感じてもらふことや、ありのままの姿を見てもらうことで障がい者理解への啓発活動をつなげ、障がい児の親同士のネットワークを作り、前向きな子育てを支援している団体。</p> <p>2002年に知的障がい児を持つ母親たちが集まり、活動を開始した。</p>
事業概要	<p>当事業は、今までの活動にプロの指導を加えることで、踊り手である知的障がい児・者の技能を高め、本人たちの自己肯定感の育成と、親たちには前向きな明るい気持ちでの子育てを目的とした内容。イベントでは、舞台と観客が共に楽しめるようにすることで、障がい児・者を身近に感じてもらい、心のバリアフリー化をめざすとしている。</p>
講評	<p>当団体の事業は長年の活動により地域で浸透してきており、プログラムが参加者すべての一体感を重視している点を鑑み、審査委員会では、「共感性」や「市民参加」について高い評価を行った。</p> <p>本アワードの助成をステップアップの機会として、さらなる活躍を期待したい。</p>

■ 福島の子どもたちを放射能から守ろう・関西（大阪）／10万円

「吹夢（すいむ）キャンプ」

団体概要	<p>放射能汚染地域に住む人々が心身ともに健康に過ごせるようにすることを目的に、当該の人々を放射能汚染の心配の少ない大阪に招き、また原発の危険性や放射能の影響などについての学習会や講演会などを開催している団体。</p> <p>2011年の震災後、福島の子どもたちを放射能から守ろうと会を設立した。</p>
事業概要	<p>本事業は、日常の延長の時間を過ごしてもらうことをコンセプトに、福島で暮らす親子を大阪に招待し、子どもたちにはのびのびと遊べる時間を提供することで、自己肯定感を高め、大人には心身を休めたり、不安を語り合ったり、人間関係などの不安から解放される時間を作るなど、癒しの時間を作る内容。</p>
講評	<p>支援側がプログラムを押し付けるのではなく、見守りを中心とすることで子どもの自主性・自発性を促していることや、生協や地域から食材の提供や寄付を受けるなど、審査委員会では「社会性」、「実現性」の点において高く評価した。</p> <p>本アワードの助成によって、有意義なキャンプとなることを期待したい。</p>

■ わかやま足育推進プロジェクト（和歌山）／10万円

「わかやま足育推進プロジェクト ～子どもたちの健やかな足の成長のために～」

<p>団体概要</p>	<p>足育によって正しい姿勢、歩き方を身につければ、成長過程でより健康な身体 の土台を作ることができるとの考えのもと、主に和歌山県内で子どもの成長にあ わせた靴の選び方や足を鍛える体操等の啓発活動を行っている団体。 2014年に団体を設立し、足育フェスタを開催、また学校でもセミナー等を実施 し、足育への関心を高める活動を行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、健康な身体を土台を作るためには、正しい姿勢と歩き方を身につけ る必要があるため、「足育」という靴・足・歩き方などの正しい知識を伝えること を目的に、足育セミナーと小学校の土曜日授業での足育体験会を実施する内容。 本事業だけに留まらず、今後は、体育学、公衆衛生学、スポーツ健康学などの学 術面からも指導を受けながら推進していくとしている。</p>
<p>講評</p>	<p>審査委員会の中でも、子どもの足についての重要性が議論され、当事業の「効 果と発展性」について高く評価した。 今後は、歩き始めの子どもたちの足についてなど、いろいろな視点をもった「足 育」の取組みに期待したい。</p>